

兵庫 県
保険医協会

西宮
芦屋
支部ニュース

No. 370
2024・4・25

発行

連絡先

〒662-0832

兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部

兵庫県西宮市甲風園一―一―五 法貴皮膚科内

兵庫県保険医協会 電話〇七八(三九三)一八〇一

阪神・淡路大震災30年のつどい・プレ企画

市民学習会「汚染水海洋投棄―下北半島六ヶ所村再処理工場―日本の核政策」

でたらめな原発政策いつまで続けるのか



原発は膨大な危険を抱えていると話す 小出裕章さん

力が強行する「ALPS処理水」海洋投棄について、小出氏は環境に漏らしてよい放射能などなく、「ALPS処理水」はトリチウムが排出基準濃度の10倍、セシウム、ストロンチウムをはじめとする他の放射能汚染物質も完全に取除かれることなく含まれた「放射能汚染水」であり、海洋投棄以外にタンクの増設等、現実的で容易に実行できる方策は多数あると紹介。

それでも政府が海洋投棄を強行する背景には、核兵器は持たないが製造技術は保有したいという基本政策があると指摘。政府は「もんじゅ」の廃炉で核燃料サイクル

東日本大震災・福島第一原発事故から13年となるのにあわせ、日本の原子力政策について改めて考えようと、西宮・芦屋支部と環境・公害対策部は共催で、市民学習会「汚染水海洋投棄―下北半島六ヶ所村再処理工場―日本の核政策」を協会会議室とオンラインで開催。支部副支部長の広川恵一先生が司会を務め、元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章氏が講演を行った。会員・市民ら127人(来場92人、オンライン35人)が参加した。

小出氏は、原発事故は現在に至るまで、立ち入り禁止区域で救助されなかった人、強制避難させられた人、被曝しながら生活する人、避難を続けている人等々、悲惨で多様な被害を生んでいると振り返った。

しかし、原発を推進してきた国・電力会社からは、原発の危険性を隠し、事故後も「想定外」と責任を逃れ、「安全基準」は「規制基準」にすり替えて原発を推進していると批判。

複数の断層運動により能登半島地震が志賀原発と柏崎刈羽原発を襲ったが、両原発は福島の事故を受け10年以上稼働停止中で、使用済み核燃料の発熱が千分の1に減り、さほどの冷却を必要としなかったために難を逃れたと紹介。世界最大の地震大国であることひとつとっても、日本で原発はありえないことが改めて明らかになったと指摘した。



会場からはたくさんの質問が寄せられた

の破綻が決定的となってもなお、青森県六ヶ所村で再処理工場を稼働させ、原爆の材料となるプルトニウムを抽出できる技術を保有しようとしているが、福島のリチウムを海洋投棄できないければ、同様に膨大なトリチウム等の放射性物質を発生させる再処理工場も運転できなくなり、日本の原子力政策という名の「核政策」が破綻に追い込まれると解説した。

核武装の議論は日本ではほぼタブーであり、殺された(?)中川議員はタブーとはせず議論すべきだと言ったために、マスコミに袋叩きにあいました。私の現在の知識では、核武装を議論してもアメリカは絶対に許さないという認識でした。このような研究会、また直接質問もできた懇親会に感謝します。

6月15日のスマホの話も、多くの市民が参加されこのように盛り上がりたばうれしいなと思えました。

【西宮市 伊賀内科・循環器科 伊賀幹二】

*講演会の様子はYouTubeでもご視聴できます。以下の二次元コードからアクセスください。



参加者の感想を紹介する。すばらしい企画でした。広川先生、皆さまありがとうございます。YouTubeに様子がアップされたら、いろいろなひとにこの話を拡散したいと思

います。能登半島地震で話題になった志賀原発と柏崎刈羽原発が、10年稼働していなかった

第10回ファイアサイド・ディスカッション 依存症としてみた「ながらスマホ」

日時 6月15日(土)15時～
会場 西宮市民会館中会議室301
(オンライン併用)
講師 旭山病院精神科医長 中山 秀紀 先生
司会 伊賀内科・循環器科 伊賀 幹二 先生



Zoom参加は左記の二次元コードからお申し込みいただけます

来場参加お申し込み・お問い合わせは
協会事務局(078-393-1840) 伊地知・山田まで

追悼 幸原久先生を偲んで

協会の前身である「保険医クラブ」の時代からの役員で、26年にわたり協会新聞部長を務められた幸原久先生が1月10日、逝去された。支部では設立当初からの世話人で、2004年からは相談役を務めていた。2001年からは芦屋非核平和のつどい実行委員長も務められていた。多田梢先生の追悼文を掲載する。

兵庫県保険医協会においても、芦屋市医師会においても、とてもユニークな存在であった幸原久先生が逝ってしまわれた。

最近にお会いしたのは、何年前の秋のゴルフコンペの後の懇親会の席でした。私の左横に座っておられた幸原久先生が突然私の肩に頭をのせられたのだった。

「先生!! 冗談なさって!!」と横を見ると、ぐらりと身体が傾いてきて大騒ぎとなった。その後閉院され、施設へ入所されたときいた。

協会では長らく新聞部長を務められ、当時は担当事務局の柳原さんが校正のための原稿を幸原先生宅まで運び、夜遅くまで校正の作業を続けておられたと聞いていた。



ある日突然、「バッタ屋から」と書かれたFAXが芦屋市の会員宛てに届いた。幸原先生は大の機械好き

診療報酬改定研究会

必要な医療提供できる診療報酬に改善を

協会は3月28日(木)西宮市・フレンドテホールにて診療報酬改定研究会(医科)を開催した。支部副支部長の半田伸夫先生(半田医院)が司会を務め、世話人の岩下敬正先生(岩下内科クリニック)、中島敏雄先生(中島クリニック)と、辰巳美晶先生(辰巳クリニック)が講師を務め、支部会員の医師や医療機関のスタッフら257人が参加した。



半田先生が司会を務め「保険証廃止撤回」署名を呼びかけた



改定の内容について解説する(上から)岩下先生、辰巳先生、中島先生

で、カメラでも何でも最進(新)のものを手に入れておられた。聞くと「バッタ屋」という言葉が返ってくる。例のFAXを送ったFAX機も長年のよしみで「バッタ屋」で安く会員のために手に入れて下さったようである。新聞原稿の投稿や原稿の校正に大きな利便性を与えたのである。おかげで、私が新聞部長を引き継いでもFAXの利用でスムーズに仕事をさせていたのだ。

幸原先生と言えばゴルフを抜くわけにはいかない。ゴルフの遠征旅行はもとより、毎週末曜日の午後、芦屋カントリーでのプレイに誘っていただくなど、大変お世話になった。結果にこだわらない方で、ナイスショットもミスショットもすべて呑み込んでくださる素敵な大人だった。

俳句部の句会で、私も数回参加させていただいたが、ゴルフボールの上にとまったトンボの句が印象に残っている。

保険医の生活と権利を守るための団体を作ろうと協会の設立に尽力されたこと、芦屋非核平和のつどい実行委員会の実行委員長として、核廃絶のための活動に熱心にとり組まれたことなどはもちろん、先生の大きな功績であることは言うまでもありません。

私はいまだに「バッタ屋」なるものの正体を知らないのです。先生、教えて!!

【芦屋市・多田医院 多田梢】

世話人会だより

西宮・芦屋支部は3月22日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催。4人が参加した。

- 【I. 最近の診療経験の交流】
- ・2024年度診療報酬改定について
- ・新型コロナ診療・ワクチンなど

【II. 予定・企画】

- ① 2024年度診療報酬改定研究会 (西宮会場) (3・28)
- ② ファイアサイド・ディスカッション (6・15)
- ③ リスクマネジメント研究会 (8・17)
- ④ 阪神淡路大震災30年のつどい (25・1・18)

【III. 報告】

- ① 健康と医療について語り合う会 (3・15)
- ② 小出裕章氏市民講演会 (3・16)
- ③ 能登半島地震対応

【IV. その他】

- ① 「保険証廃止撤回」自治体請願
- 【V. 協会・保団連行事】
- ① 第39回保団連医療研究フォーラム (9・22・23)

*世話人会の日程は毎月第4金曜日です。次回は5月24日(金)に予定しております。支部についての「意見や企画案などをお寄せください。」

協会の診療報酬改定研究会は「説明会」ではなく、診療報酬改定を通して日本がどのような医療に向かうのか明らかにする場と位置づけている。今次改定でも政府は医療従事者の賃上げを言いながらも、実態は特定疾患療養管理料の対象範囲の絞り込みやコロナ特例点数の廃止など事実上の大幅マイナス改定となっている。改定研では、すべての医療従事者が安

心して働くことができ、患者さんに必要な医療ができるよう診療報酬を改善すること、現行の健康保険証を存続させることなどを要望する「決議」を採択した。参加者からは生活習慣病管理料の算定要件などの質問が寄せられ、「政府・厚生省は診療所をつぶして減らそうとしているのか」などの怒りの声も寄せられた。